

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年5月3日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691400115
法人名	医療法人浩愛会池田温泉クリニック
事業所名	グループホームまごころ
所在地	鹿児島県垂水市錦江町1-238 (電話) 0994-32-6676
自己評価作成日	平成27年2月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念

- 1 私たちは、ひまわりのように明るく、優しく、「真心」こめて一人ひとりの笑顔を支えます。
- 2 私たちは、一人ひとりに向き合い、気持ちに「寄り添い」ながら、住み慣れた家や地域での暮らしを切れ目なく支えて行きます。
- 3 私たちは、地域住民の一員として、地域社会との交流を図り、「支え合える」関係を築きながら、ご家族や地域社会との関係を調整する支援を行います。

利用者様が自分の暮らしをどうしたいのか？自分の生活、人生をどの様にしたいと思っているのかを考え本人の望む暮らしを実現するために話し合い、まごころに入居して幸せだった。良かった思える様に日々、思いやりの有るケアに努めています。職員同士のチームワークがとれるように意見を言い合い、助け合ってケアに繁栄しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【理念の実現に向けて】

・開設当初の職員全員で考えた理念である『まごころ』『寄り添い』『支え合い』の実現に向けて、職員全員が理念の意味を理解するとともに、まごころを持って接することや利用者寄り添いを感じる大切さ、地域の一員として支え合いながら生活していける事業所を目指している。

【食事を楽しむ】

・食事は毎日の生活の中で最大の楽しみごとであることを大切に考えており、菜園での野菜づくりから収穫、調理の下ごしらえ、食卓に並ぶまでを利用者と職員が一緒になって行っている。
・元シェフやお菓子作りの得意な職員によるおいしい食事やおやつは、利用者はもとより、家族や運営推進会議のメンバーにも好評であり、隣接事業所と合同でのバーベキューや焼き芋会、外食等も楽しみながら食事の時間を楽しく過ごしてもらえるよう工夫している。

【災害訓練について】

・年3回、同法人の隣接事業所と合同で実施しており、近隣のスーパーや企業の職員にも参加してもらい、利用者の見守りや誘導等をお願いしている。
・備蓄については、約50人分の飲料水や食料を備えるとともにカセットコンロや懐中電灯、防災ラジオ等の備品も準備して万が一に備えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	玄関、ホールに理念を掲示して常に見る事が出来る環境を作り、理念に基づいた、プラン作成をしてより良いケアが出来る様に話し合い共有している。	開設当初の職員らで作成した理念を玄関やホールに掲示するとともに、常に携帯していつでも理念を振り返ることができるようにしている。また、理念は新人教育や外部評価前に確認するなど、事あるごとに職員間で話題にし、理念に沿って「まごころ」を持って接することで、自己決定できる支援の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事に参加したり近くの店に買い物や散歩をしたり、事業所の行事等に、参加要請を行い地域の人達との交流が出来る様にしている。	職員や家族、自治会長等から情報ももらい地域の清掃活動や運動会、文化祭等に参加するなど積極的に地域住民と交流している。また、日常的に散歩や買い物に出かけ地域の方と挨拶を交わしている。隣のスーパーの店員とも顔見知りとなり、笑顔で挨拶や会話を交わしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	御家族や知人の方が来所された時に、雑談の中で疑問などが出た時は、答えられる範囲で相談に乗っている。実習生の受け入れ等も行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所、民生委員、御家族などに参加して頂き、サービス向上につながる様な会議運営が出来る様に心掛け、会議で出した内容を活かせる様にしている。	会議には家族や行政職員、民生委員、隣接する同法人の小規模多機能ホーム職員も参加して、日常の利用者の様子やホームの活動報告などを中心に話し合っている。また、メンバーが意見を出しやすいよう、手作りの漬物やお菓子などでもてなし、和やかな雰囲気の下で開催している。外部評価の結果や目標達成計画にどのように対応したかについても報告し意見交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議時に、報告を行ったり、市のケアマネ研修会に参加して情報交換して強力関係を築く様にしている。	行政職員とは運営推進会議や介護保険認定申請時等に顔を合わせており事業所の活動内容をご理解頂くようにしている。また、行政や医療、介護職、民生委員等地域住民も交えた連絡会が定期的開催されており、事業所の実情やこれからの市の地域ケアのあり方等について議論がなされている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内での委員会、研修会に参加し、身体拘束廃止に向けての指針を理解して、身体拘束しないケアに取り組んで実践している。	運営規程に身体拘束廃止の項目を設け説明しており、年1回は必ず研修の機会を設けている。また、『身体拘束委員会』を毎月開催し、話し合われた内容はケア会議で報告し職員全員で確認している。日頃より職員間での見守りの徹底と声かけにより、玄関の施錠をしないケアが出来ている。「待つて」等に代わる言葉やケアの方法を職員で話し合い実践していきたいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での委員会、研修会に参加し、虐待防止に向けての指針を理解して、虐待しないケアに取り組んで実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内での委員会、研修会に参加し、権利擁護に向けての指針を理解して、入居者様の権利を阻害しないように取り組んで実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前に説明を行い、退居や重度化、ターミナルケア等、重要な項目については、より丁寧な説明を行って、納得してもらえるように努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様の普段の言動を捉えて記録し、御家族来所の際に意見を伺って、ケア会議等で話し合い共有して運営に反映している。	日頃の言動から利用者の思いを汲み取るとともに家族が来所された時には必ず意見や要望を尋ねるようにしている。また、県外の家族には、まごころ便りに手紙と写真を添えるなどして近況報告をしている。相談や苦情、ヒヤリハットについては、こまめに記録して申し送り時やケア会議で報告するとともに、家族にも速やかに対応策について報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ケア会議や日頃の個別の相談等で意見や提案を聴き運営に反映している。	日頃のコミュニケーションやケア会議、連絡帳を活用して職員の意見を聞いており、時に個別に話を聞くなど積極的に意見を汲み取っている。使いやすい書式の工夫や研修会への参加、また、休日を取りやすくするなど、職員と管理者が日頃からよく話し合って日常の業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課などを実施して勤務状況を把握したり、往診や巡回を利用して、意見を聴いて改善を図られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の能力、特性に合わせて外部研修や法人内の研修を開催して、職員のスキルアップを図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市のケアマネ研修会やイベント等に参加して交流機会を作りサービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に笑顔での対応に努め、不安や要望に対して傾聴し解決出来る事には、素早く対応して御本人の安心と信頼を得るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、疑問点や不安な事を尋ねたり、その場では出なくても、いつでも、何でも聞いて頂ける様に声掛けを行って信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人・御家族の意向を確認しながら、無理の無い様にスムーズなサービスが出来る様な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が同じ家に住む家族としての関係を築ける様に、出来る事は一緒にして頂き共に暮らす者として対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも出入り出来るもう一つの家の様な環境作りや御本人と家族の絆を強められるような関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人が在宅時の関係を保持できるように美容院等への外出を御家族の協力を得ながら支援している。	これまでの人間関係をアセスメントシートに落とし込み、ご家族や知人・友人といつでも面会できるようにしている。また、電話や手紙の取り次ぎのほか、馴染みの美容室やお店に出かけられるよう家族とともに支援している。隣接する小規模多機能ホームを利用している知人らといつでも面会でき交流できるよう合同行事も積極的に計画している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共用部分での座席の位置など、楽しい時間を過ごせる様、日頃の様子を観察して配席に工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、入居時と変わらない関係が続く様に、出会った時の挨拶や相談等に応じて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の触れ合いの中で、御本人の意向を聴き、出来ない時には御家族からの情報を聴き、意向の把握に努めている。	日々、寄り添う中で感じた表情や何気ない言葉から思いを汲み取り、家族からも意見をもらい把握に努めている。内容は朝夕の申し送りやケア会議で報告するなど、可能な限り本人の希望する生活が送れるよう頻りに話し合う機会を設けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人・家族とこれまでの生活歴・環境などを聴きこれまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活状態を聴いたり様子観察して、御本人の過ごし方や有する力についての把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人・家族の要望を中心に職員の日頃の状態観察を参考にして、ケア会議や面会時に話をしてアイデアの提案を行い介護計画を作成している。	利用者や家族の意向のほか、受診時の医師のコメントや主治医意見書等を参考にしながら介護計画を立てている。介護計画作成者は日頃より本人に寄り添うことで感じ取った思いを、ノートに書き留めて計画に反映させるなど本人本位の介護計画になるよう努めている。また、介護計画の見直しについても、状況に応じて都度作り替え、関係者に交付している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や申し送り、連絡ノートを活用して職員間での情報共有に努め介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人・家族の状況変化に対応して、新しいニーズを把握して出来る範囲のサービスを提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前からの関係を継続し、御本人にとってより良い生活が送れる様に関係機関と連携してこれまで以上の生活を送る事が出来る様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの関係を大切にし御本人・家族の意向によりかかりつけ医を決めてもらい、必要に応じて、受診支援行っている。	入居前のかかりつけ医の情報を記録し、希望する医療機関の受診を家族と職員が協力して行なっている。受診の内容については、介護記録や連絡帳に記録するとともに申し送り時に報告している。また、気軽に往診が受けられることで利用者や家族、職員とも医療面において大きな安心となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定を基に変化を捉え異常が有る時は、ホーム又は法人の看護師へ連絡・相談し適切な対応をとれる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、当該病院の相談員と連絡を取り状態把握に努め、御家族との連携を図ったり、お見舞いに行き、御本人の安心感を得られるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化や終末期に関する意向を伺い、系列施設との連携により、いかなる状態にも対応できる事を伝え、御本人・御家族の要望に応えられる様に皆で協力して支援している。	入居時に『入居時リスク説明書』や『ターミナルケア指針』で重度化した場合の説明を行ない同意を得て、入居後も状態に変化がみられた時には『状態悪化についての同意書』で再確認を行なっている。また、重度化した場合も可能な限り支援できるように、手順書を作成して職員全員が同じケアを行ない、対応できるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所時に、説明を行い、必要がある時には、御家族へ説明して同意書をもらう様にしている。年三回の防災訓練時に、救命訓練を行い参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年三回の防災訓練を行い、近隣の方や民生員の方にも参加をしてもらい災害時の対応について訓練を行い、地域の方々と連携をとれる様にしている。</p>	<p>地震や津波、噴火を想定した防災訓練を年3回、隣接事業所と合同で夜間想定も含め実施している。訓練には隣のスーパーや近隣の企業の職員にも参加して頂き、主に利用者の見守りや誘導をお願いしている。備蓄については、約50人分の食料や飲料水等のほか、カセットコンロや懐中電灯、防災ラジオ等の備品も準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格を大切にして、プライドを傷つけない様な声掛け、態度で接し、自己決定による行動が出来るように支援している。	人権に関する研修を年1回法人研修として実施しているほか、外部研修にも参加してケア会議で情報の共有を図っている。トイレへの声かけなどはプライバシーに配慮して耳元で声をかけたり、「こちらにどうぞ」と他の利用者に気付かれないよう誘導するなど目立たない対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で、御本人が望まれる事を話の中から引出して、実現出来る様に御家族とも協働している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアの履行を念頭に、その方のペースで過ごせる様、職員一致して希望の実現の手助けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	御本人の思いを大切にして御家族の協力を得ながら、化粧品や衣類の購入などの相談、同行支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御本人の嗜好や状態を考慮して、毎回の食事が楽しく美味しく食べられる様に支援し出来る範囲でのお手伝いを入居者様にもお願いしている。	買い物や調理の下ごしらえなど一連の工程を職員とともにこなしている。毎日の献立は職員が立てているが、菜園で収穫した野菜や差し入れを頂いた時はメニューを変更したり、利用者のリクエストにも積極的に応えている。また、行事食や中庭でのバーベキュー、外食などいろいろな食事の機会を工夫し、楽しい雰囲気づくりにも気を配っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分・食事の摂取量を介護記録に記載し記録を見て、少ない時は、声掛けや飲食物を工夫して、必要量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に自分からされない方には声掛けを行い、その方の状態に合った声掛けを行い、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録に、排泄の状態を記録して排泄管理を行い、援助が必要な方には、定期的な声掛けと誘導等の支援を行っている。様子観察し職員間で情報共有して家族と連絡しながら自立に向けた援助を行っている。	業務日誌に尿や便、水分摂取量等のチェックを記録し、個々の排泄パターンを把握することでトイレ誘導を行っており、トイレでの排泄を基本と考えているため、現在ポータブルトイレを使う利用者はいない。また、パットやリハパンツを外す努力を介護計画に組み込み、職員全員で対応方法を共有して排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録により、排便の状態を把握して、便秘傾向の方は、ドクターへ上申して、薬剤の検討を依頼して服薬援助し食事の工夫や飲み物へオリゴ糖を投与したりして個々の排便管理を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	御本人の希望を第一に優先して入浴してもらい、入浴拒否多い方は、御本人の状態に配慮して声掛けを行い、気持ちの良い入浴ができる様支援している。	基本的には2日に1回の入浴としているが、希望があればいつでも入浴が可能でシャワー浴や足浴にも対応している。入浴が楽しみとなるよう、ゆず湯を提供したり、入浴後の水分補給にはオロナミンCやジュース等好きなものを選ぶようになっており、利用者に変え喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠や不穏のある方には、無理強いせずに見守り、様子観察して眠気が出た時に声掛けを行い、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を近くに置き、いつでも読める様にして有り、変更時には、変更が有った事を連絡ノートに記載して情報の共有を行っている。状態の変化が有った時は、ドクターへ上申している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人の出来る事を、日々の観察から見出し、職員間で情報を共有して、生活の中に取り入れて楽しい生活が出来る様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	隣接施設との合同外出行事や散歩の支援を行い、御本人の希望により買い物への同行や御家族との外出・外食・外泊の支援を行っている。	日常的に買い物や散歩、菜園の管理等で屋外に出る機会を設けて気分転換を図っており、外出先によっては家族の協力も得ながら可能な限り本人の希望する場所に出かけられるよう積極的に支援している。外出先としては、初詣をはじめ桜や紫陽花などの花見、隣接事業所と合同で行なう夏祭りや地域の運動会にも参加している。また、歩行の難しい方には法人のリフト車を借りて出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>御家族の都合が悪く、買い物に同行する時は、留意しながら御本人に財布を持ってもらい、見守り声掛け援助しながら自己にて買い物ができる様支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>御本人の希望により、電話支援行っている。御家族からの郵便物の取り持ちや年賀状の差出援助など行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間でも御本人の希望を叶えるべく、他の入居者様の意向・状態を勘案しながら快適な空間を作り、季節や天候を考えながら、周囲や施設内の音・光を工夫して居心地の良い空間を目指している</p>	<p>玄関は3枚引き戸の自動下りになっているため開口部が広く、造りつけの椅子があり靴の脱ぎ履きもしやすくなっている。フロア内の天井は高く、採光も十分であり、中庭のウッドデッキでは隣接事業所と合同行事を楽しむ機会も多い。また、フロア内には季節の作品や花がさり気なく飾られるなど季節感を感じる工夫がみられる。畳スペースは、洗濯物をたたんだり会話を楽しむ場として利用しており、疲れたら体を横にするなど自由に利用できるスペースとなっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファや和室なども利用して気の合う者同士の楽しい場所や時には、一人になれる空間を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>御本人の使い勝手が良い様に、自由にレイアウトしてもらっている。御本人が快適に安全に過ごす事が出来る空間としての居室になる事を目指して支援している。</p>	<p>居心地良く過ごしてもらえるよう、自宅からテレビや位牌、寝具等を自由に持ち込んでもらい、ベッドの配置や飾り付けについても動線を考慮しながら使いやすいようにセッティングしている。居室の掃除は毎朝職員が行なっているが、時には利用者とコミュニケーションを図りながら一緒に掃除を行なうこともある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの能力に応じて居室の工夫をしたり、ホールの空間を快適で安全な場所になる様工夫している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない